

## 第10回 洗車について考える

さて、ようやく暖かくなってきて、ふと愛車を見る。冬のあいだ風にさらされた車は埃にまみれ、泥がこびり付き、購入当時の光沢面は見る影もない、ということになってはいないか？何、私だけか？まあ、私は特にブショウだからなあ。しかし、まあここまでひどくはなくとも、年末大掃除で車を洗って以来という人は少なくはないだろう（これも私だけか？）。しかし、まあ、春である。そろそろ車ちゃんもお掃除してあげよう。ということで、今回は、洗車について考えるのココロだあ！（小沢正一風によんでね）

まあ、一言にセンシャといってもですね、大きいものから小さいのまで様々でありまして、まあ共通してキャタピラで・・・それは戦車。万葉集とか百人一首とかと選ぶ人・・・それは撰者。わかった、もうみなまで言うな、あの鎧を着て剣を持って・・・それは戦士や。そういうつまらないことで、ページを埋めるなよな。

### ☆ 洗車法

では、戯れ言はおいといて、洗車についてタイプ別に考えてみようか。

まず、金はあるけど暇は無えという人は・・・ずばり、ガソリンスタンド洗車だあ。これには、スタンドのに一ちゃんが直接やってくれる手洗い洗車と機械による洗車がある。しかし・・・

前者は人手で行うだけに、時間がかかってしまう。金もかかる。そんな暇があるくらいなら自分でするわい、ということで、お年寄り以外はバツ！ だいたいスタンドのに一ちゃんといっても、しょせん高校生のバイトですからね。なにするか分かったもんじゃないですよ。

後者は便利で安い（高くても1000円くらいか）ということで、最近ではスタンド洗車のスタンダードだが、なにぶんにも機械が行うということで、車を大事にする人には勧められない。以前、コロナに乗っていた頃、何度か頼ん

だことがあるが、屋根の部分に微妙に薄い傷が入ったりして、あまり気分のいいものではない。気にしなければいいと言えば良いんですけどね。

ま、そういうことで、スタンド洗車はいずれにしてもバツ！

次に金は無えけど暇はある、という大学生パターンにいてみよう。

これには3つの方法が考えられる。

洗車道の王者・・・ガレージ洗車

洗車道の新派・・・コイン洗車

洗車道の裏道・・・スタンド自分洗い

ひとつめの自宅でしこしこやるといふ、まあ最もポピュラーなガレージ洗車ですね。このガレージ洗車については、後の15章で詳しく述べていますので、そちらを参照のこと（などと書くと急に論文調になるのだが、当然15章などないのだ）。

ふたつめのコイン洗車とは、国道沿いにたまに見かける洗車の自動販売機といったような奴であります。300円ほどのコインを巨大なコンプレッサーのような箱に挿入、じゃなくて投入いたしますと、その横からでてくる長いホースから、ものすごい勢いで洗剤入りの水が飛び出てくると言うしるものです。最近ではなかなか凝っておりまして、温水、洗剤入り温水、温水'とそれぞれ1分半ずつ噴射するという、さながらソナタ形式のようなコイン洗車もあります。

最初の温水で泥・砂・小石を落とし、次の洗剤入りで汚れを落とし、最後の温水で仕上げ、ということでありましょう。しかしまあ、これでは、汚れを落とすただけなのでありまして、その後タオルで拭いたり、ワックスを掛けたりといった大事業が残っているのでありますね。よく利用する人なんかは、洗車道具一式を持ち込んで、全てをその場で済まして帰って行くわけです。ま、そこまではしないまでも、手軽に汚れが落とせるということで、コイン洗車は支持！であります。



みつつめはガソリンスタンド自分洗いであります。これはですね、意外と知られていないわけですが、たいていのスタンドは、洗車させてくれるのですね、無料で。水不足の時期は有難いね。さらにブラシくらいなら貸してくれるのですね。本当にありがたいね。と言っても、さすがに一見のスタンドで、洗車させてね、なんてかわいく言っても、あまり良い顔はされないでしょうけどね。やっぱり、馴染みのスタンドを作ってからということでしょうか。

これの応用としては、大学などの構内で勝手に洗ってしまうという輩もおりますな。窃盗罪でっせ。しかし、まあ大阪教育大学ではよく見かけましたな。おまえらなあ、将来教職につく者がだなあ、ぶつぶつ。

さらにさらに裏技としては、ために溜めた汚れ・水垢などを、大雨の際に走り回って一気に落とすという手もありますな。バケツをひっくり返したような大雨ならけっこう汚れは落ちますぜ。なんといっても無料だし、走り回っているだけでいいから楽だしね。金も暇もない方にお奨めです。しかし、季節が夏場だけに限られますけどね。特に今ごろ（春）なんかは、雨中の黄砂の影響でかえって車体が汚れたりして。

#### ☆☆ いきなり15章・ガレージ洗車について

ということで、ガレージ洗車について、詳しく見ていくことにしよう。ま、洗車の仕方というものは、別に誰がしても同じ様なものになるだろうし、私もこれといって特別な事はしていないので、あまり面白くないかもしれないけど・・・、と言いつつ書いてしまうのだった。

たかが洗車といっても、常識というか手順というか、基本操作というものがある。順番に書くと

- ① 水掛け・・・泥や小石を落とす。
- ② 汚れ落とし・・・一般的な汚れを落とす。
- ③ 水垢落とし・・・しつこい汚れを落とす。
- ④ 補修・・・傷をなおす。
- ⑤ ワックス・・・しあげ

それでは①から、順に見ていこう。

①では、水を車体の上から下へとぶっかけて行くわけだ。これは車体にくっついている砂や小石などの固体を落とすという目的と、軽く水分を与えることにより汚れをとり易くするという目的がある。これを行わないと、②の汚れ落としの段階で、砂などで車体を傷つけてしまったり、必要以上の労力を要したりする。だから①は、軽視しがちであるが、欠かせない項目だ。

②で、大部分の汚れを落とす。バケツにお湯を半分くらいいれ、そこに市販の「カーシャンプー」をキャップに5杯ほど入れて、よくかき混ぜる。て

きと一に泡立たせて、スポンジなどで車体に塗りたくって行くわけだ。スポンジは大きめの物がよいだろう。私はスポンジに柄（え）のついた物を使って

いる。これは使いやすい。また、車体を洗うときにはスポンジを、タイヤやホイールや下回りを洗うときにはブラシを、というように使い分けている。で、当然だが、スポンジを使う前には、水でよく洗い、砂が付いていないかどうか確かめる。①でせっかく車体の砂を洗い落としていても、スポンジに砂が付いていたのでは何にもならない。

というわけで、①と同様に上から下へと、洗剤入りのお湯でゴシゴシと行くわけだ。ある程度の面積を洗ったら、水をかけて見る。すると、シャンプーの泡に隠れていた洗い残しの部分だけが薄汚れて見えるので、そこをスポンジでゴシゴシとやる。また水をかける、スポンジでこする、と3回も繰り返せば、ピカピカになるだろう。

関係ないけど、カーシャンプーというのはいつ頃から出てきたんでしょうか？昔は無かったと思うけどなあ。トニック系の匂いなんかついてたりして。

そのうち出るんじゃないか、ハーブエキス入りカーシャンプーとかコンディショニングカーリンスとか、カーリンスとシャンプーがヒトツになった忙しい朝の方にぜひどうぞってなモノとか・・・。

③では、アスファルトのタールとか、油膜とかのしつこい汚れを落とす。簡単なものは⑤のワックスの所でワックスとともに落とせるのだが、一筋縄ではいかないものもある。タール落としとかいうものも売られているので、それを使えばいいようだ。私は強引にも「コンパウンド」でこすり落としてしまう。コンパウンドについては④を参照の事。窓ガラスに付着している油膜は「油膜お



↑ 新付きスポンジで、よく洗う。



↑ 水を流し、深い汚れを落とす。

とし」を使う。スプレータイプや液状タイプなどがあるが、効果はそうたいして変わらないようだ。

④での補修とは、直接は洗車とは関係ない。しかし、せつかく車体の隅々まで観察する機会が、②と③であったわけだから、何もしない方がどうかしているというものだ。

不特定多数の車が利用する一般駐車場を使う機会が多いと、どうしても知らない間にバンパーやフェンダーといった出っ張った部分に傷が入っていることが多い。実に腹ただしい限りであるが、その場で気付くという事がまず有り得ないし、気付いたとしても文句を言いに行く所がないわけだ（横に留まっている車がそうであれば、ドライバーが帰って来るのを待たばいいんだけどね）。ま、とにかくこういった傷は洗車をして気付くもなんですね。

カスリ傷程度のものであれば、コンパウンドで解決できる。コンパウンドとは磨き粉のことで、カーショップで売っています。布かなんかにこれをとって、これで傷の入ったあたりを磨くわけですね。そうすると傷は消え、その周りの塗装面もその分磨き取られ、傷の入ったあたりを埋めてくれるわけです。ただし、これは塗装面をじわじわと減らしていくわけなので、やりすぎは禁物です。

強烈に入った傷は、粗目のコンパウンドで下地の塗装面まで削らなければ取れないでしょう。そして車種別のスプレー塗料で塗装のやり直しとなるわけです。私は不器用なので恐くて出来ませんが。

車体がへこんでしまうほどの傷、これはもう、板金屋に出すしかないでしょうね。小さいもので、腕に覚えがあるなら、パテ埋め・下地処理・塗装と順にやって行っても良いのですがね。板金屋でへこみを直すだけなら大してお金はかかりません。小さいものなら5千円くらいでしょう。ただし、へこんだ部分だけでなく、その周り全体の再塗装が、1万円くらいからかかりますんで、けっこう痛いわけですね。

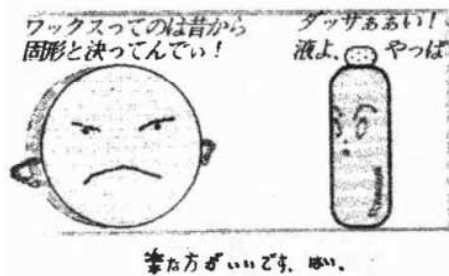
それから塗装面の剥げとかも発見されますね。助手席側のドアは様々な人が乗るからか、よく剥げますな。そういった塗装面の剥げの補修は、ホワイトなど原色系の塗料なら、カーショップで売られているタッチペイント（車種別にかなりの数があります・500円程度）で充分ごまかせます。またシール状の傷隠しなども発売されています。メタリックや中間色の場合は、配合が微妙なので、車を買ったディーラーで専用の塗料を買い、それを塗ったほうが良いでしょう。



タイヤハウスや、マフラーの辺りは良く錆が発生します。これは布なんかで擦り取って、錆止めでも塗っとけば良いわけですね。前に乗っていたコロナはこれをしなかったためにマフラーがかなり早く痛んでしまいました。

それでは補修が終わったら軽く走ってみましょう。これはJ A Fの受け売りですが、車を洗った後、そのまま放置すると、車体の隠れた部分に水が残ってしまい、錆の原因になるというのだ。だから水切りの意味で少し走れという事でしょう。しかし、あまり走りすぎると車体に熱が残ってしまい、次のワックス掛けが大変になるのだが。

⑤でワックス掛けに入る。一口にワックスと言っても、固形・半ネリ・液状・スプレーと様々であります。使いやすいのは、液状やスプレー、長持ちする



のは固形・半ネリ・・・と言うのが従来のワックスのイメージであります。しかしまあ、全部使ってみたわけではないので、断言は出来ませんが、液状も半ネリもあまり変わらんのじゃないでしょうかネ、と言うのが最近の私のワックス観なのですね。それなら使いやすい方がいい!と、考えるのは自然なことでありまして、

私は一昨年あたりからスプレータイプ、今年から液状タイプを使い始めてます。固形タイプでは、『レインダース』ってのが、光沢の持ちがたいへん長持ちして良かったわけですが、そのスプレータイプが発売されてからと言うもの、楽な方へ楽な方へと流れ流れて行きまして、現在は液状ワックス『イオンコート』、水玉コロコロ楽チン長持ち3カ月OK!になってしまいました。

ま、そんなこんなで、あまり積極的にワックスを掛けたくない私なのですが、小学生の頃からワックスを掛け始めて十有余年の経験と実績から申し上げますと（そう大した事でもないか・・・）、ワックス掛けというのは、要はロウを塗ったくって、不要な部分を拭き取る行為なわけだから、早すぎるとロウが定着しないし、遅すぎると、不要なロウまで、固着してしまう。ここん所にワックス別の定着時間というものがあるわけですね。簡単な目安は、拭き取り易いかどうかということ。早すぎると、妙な抵抗感があるし、遅すぎると、もの凄い労力を要します。だから車体全体にワックスを塗ってから、拭き取って行く・・・なんてやり方をしますと、たいへん遅すぎて汗をかきかき大奮闘!になってしまいます。ですから、ボンネットならボンネット、ドアならドア、と部分ごとに塗っては適当なところで拭き取って行く、という方法がベターなのではないでしょうか。

さて、ワックス掛けも終わり、光沢ぴかぴかの愛車となりました。外観は。残るは車内の清掃とエンジンや走行系の点検となるわけですが、お時間のようなので、またの機会に、ということで、どもども。

それでは、来月もまた一　みて下さいね～　うんがとっと。